



日刊 千葉動力労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.2.21

No. 3353

2/25 新波対



津田沼支部破壊の 業務移管を許すな

運転士を人権扱いしろ! 乗務時間・距離は極限的!

当局はまともな
団交も行なえ

われわれは、激しい怒りをおさえることはできない。

「九一・三ダイ改」が、業務移管という組織破壊と殺人的労働強化、さらには地域住民を犠牲にする前代未聞の最悪ともいうべき「ダイ改」であることを弾劾し、何度も真しな話し合いを申し出てきた。

だが、千葉支社は、多くの不誠実な対応を改めず、今だ何一つ具体的要素・労働条件について提示しないという異常な対応に終始している。「提案したものは、一切変更しない」「理屈など一切いらぬ」という団交。労働組合無視に固執しているのである。

これが

団交か!

二月二十日の「団交」で動労千葉からの、運転関係職場の三十五項目にわたる改善要求に対し、実に当局の「回答」は、「就業規則

及び乗務割
交番表作成
規程に基づく
き作成した
」、これのみである。
動労千葉側は、厳しく
抗議した。

「組合」各区の仕業について、現場から出されている食事時間、折り返し時間、睡眠時間の確保、大型仕業の解消等の改善要求について、耳を傾け前向きに検討する考えがあるか。
「当局」色々意見が出されているのは知っている。しかし、今回は修正しない。

「組合」乗務員が働きやすいダイヤをつくるのは、当局の責任だろう。今回なぜ出来ないのか。
「当局」就業規則及び乗務割交番表作成規程に基づき作成した。

これが、安全と人命を
あずかる「運転」の管理
者の態度、言葉か。
ストライキをもって、
この当局の異常な姿勢を
正していかなければなら
ない。

要求の柱
① 業務移管—津田沼支部破壊粉砕!

既に「日刊」でも暴露してきた通り当局はJR総連と一体となって、津田沼に集中攻撃を加え、それは津田沼車掌区九十九名削減ということも含め、動労千葉のみならず国労・鉄産労の解体をも狙った悪らつなものである。

彼らは、西鉄労のJR総連脱退等という決定的危機に直面しており、その打開をもちかけて、危機感をこめて、なりふりかまわぬ攻撃に出てくることは必至である。

われわれは、彼らの危機感を上回る決意と迫力でストライキを貫徹し、組織破壊を打ち破っていかねばならない。
津田沼支部の仲間の怒りを全組合員が共有し、たちあがろう。

② 高齢者対策の確立、乗務員仕業の改善!
この要求は、われわれがJRで人間らしく、働くに当たって、最低限のあまりにも当然で、切実な要求であり、何として改善に向けた突破口を切りひらかなければならない。

乗務員仕業の改善要求に対して、「現場でいろいろ意見が出されているのは知っているけど、修正はしない」とする当局の態度は、言語道断である。

③ 全ての強制配転者の原職復帰、全ての予科生1の運転士登用をかちとろう。
④ 空港利用客のためのみに地域住民を犠牲にする成田エクスプレスの列車設定を許すな。
全組合員は、一丸となつて要求実現をめざし、たたかひぬこう!

90年代の勝利、新たな10年を切りひら

二・二二ダイ改合理化粉砕 動労千葉総決起集会へ

十八時から
千葉市民会館小ホール

全労組集結をのぞ